

蔵王連峰 振子沢遡行～濁沢下降 報告書

【日程】9月10日(土)

【メンバー】CL 平野(直) SL 上茂 澤田(淳) 小原(記録)

【山域】蔵王連峰／振子沢～濁沢下降

【行程】賽の碓(6:50) ひよどり越え 濁沢入渓点(7:20) 振子沢出合(7:40) 振子滝/
下段(8:15) 振子滝/上段(8:30) お釜横コル(10:15) お釜(10:25) 濁沢最初の懸垂場
所(11:05) 大黒天(12:30)



大迫力の振子滝

・前夜発：20:20 千葉発～圏央道経由～東北道白石 IC

仮眠場所の賽の碓(さいのかわら)までエコーラインを上り走らせるにつれ、ひどい強風になってくる。台風から温帯低気圧に変わったとはいえ、通過後もその影響は免れられないようだ。賽の碓 P に到着し車のドアを開けようとするも、開けるのも大変な風圧そして寒～い！体が吹き飛ばされそうな程に荒れ狂っている。ここは諦め来た道を風がおさまる所までひたすら引き返す、大分下り風も若干弱まってきたあたりの駐車場(トイレ有)に落ち着く。テントはバタバタけたたましく揺れるが、風にあられわれパキッとした夜空の中に鮮明な星が見られ明日は良天の予感。

・9月10日(土) 晴れ 朝のうち強風

下山場所の大黒天まで車を走らせ CL 持参の折りたたみ自転車をデポし、賽の碓 P まで車で戻る。天気は予報以上に良いが、残念ながら風が昨夜ほどではないが寒い、沢も一気に秋の訪れ、今シーズンも終盤に差し掛かったか・・・と SL と私「あー！！夏が(沢)終わるー！」と嘆く。あと何回行けるか・・・今年もまた沢ロス症候群に陥りそうだ。沢とは思えぬフリースやレインウェアを着込んでの出発となった。

ひよどり越えの下り途中、前方にはこれから遡行する振子滝の全貌(下段・上段)が見える。数日前の天気による影響か？一部道沿いは沢状になり水が流れ、時より突風も吹く。

30分程で濁沢に到着し沢筋に入ると風は弱まり一安心。

入渓準備を整え濁沢を遡上する事 2～3分程で見た目パツとしない振子沢出合に入る。

大岩を連ねた 4～5m の登れる小滝がバンバン続き序章部分も結構楽しめる。

40分程小滝ゾーンを遡上すると一気に景色が開け振子滝(下段)あらわれる、40m程の迫力ある大滝を下から見上げると、抜けるような青空と滝飛沫がキラキラ煌く圧巻の景色！

大大大歓声。振子滝の言われである風に揺られ滝が振子のように揺らめく様子は風もあったので若干湾曲して見えたような・・・見えないような・・・

下段滝は右岸から高巻く、きちんと踏み跡もありわかりやすい。見た目より容易に滝上へ上がることができる。

下段の滝上へ上がるとさらに迫力のある上段の滝。上段の滝を上る前に平坦な眺めの良い場所で小休止。振り返ると濁沢上流にある 100m 弱の不帰ノ滝も見える。前も後ろもパーフェクトな景観！上段滝は左岸を高巻く、滝落ち口を左に見ながらのトラバースは難しくはないがザレているので慎重に。

振子滝を上りきると別の沢に来たかのよう、ガラッと溪相が変わる。

序盤は無機質な岩稜帯なのだが、形容し難い・・・異惑星？アドベンチャーパーク？

このような溪相ははじめてだ。とにかくワクワク感が半端ない。

息つく暇も忘れ夢中で撮影隊に励む。振子滝もかなり良かったが、個人的にここからの溪相がかなりお気に入りとなる。

間もなくゴルジュ帯に差し掛かる。右岸の岩尾根に上りゴルジュ底を見下げながら行くのだが。ここはゴルジュ中を行ってみようと CL が底に降りてゆく。見た感じ難しそう(汗そして、ほかの振子沢の報告でもゴルジュ中を遡行しているパーティーは見当たらない。まずは、CL がチャレンジ！ツルツル垂壁をどうやってへつったか見逃してしまったが滝前まで行き、ツルツルをツッパリのし上がっていった。
私のドボン確率は 95%と見た・・・濡れたくない人々はゴルジュ上にそそくさと戻る。

多方向から流れ出る水流、どこでも自由に歩け開放的でとても気持ちが良い。
二俣を右へ進むと、源頭の様相となり小沢沿いには踏まない方が難しい程りんどうが咲き乱れなんともロマンチックな沢道。あーりんどうだなんて秋きちゃったねーとしつこく嘆きながらも、昔の乙女たちは美しい花との記念撮影に余念がなかった。
五色岳を左前に見ながらお釜横のコルに上がると咲き終わったコマクサの株がたーくさん、こちらも踏み潰さないように気を付けながらお釜流れる小沢沿いを少しだけ下ると、ドーン！と静寂の中にエメラルドグリーンのお釜が姿を現す。神秘的・・・本日何度歓声を上げたことでしょう。湖畔に降り立ち泳ぎたい気持ちを抑え足元だけチャブチャブ入る。ゆっくりと休憩しながら、なかなか見られない景色を十分に堪能させていただいた。

お釜外輪を反時計回りに歩き後ろ髪ひかれながら濁沢に入る。2回の懸垂下降があるのだが、数年前の記録では両方ともにフィックスロープがあったようなのだが、現在は両方共なし。

1回目の懸垂場所は木の根に残置スリングありで問題なし。

問題は2回目の懸垂場所で、滝の落ち口から取れそうな場所は見当たらず、左にちょっと怖いがトラバースする。大岩を使い CL が降りてロープ回収出来るか確認するも引っかかってしまう。大岩の少し先にグラつきのあるハーケンがあり、心もとないが極力テンションをかけぬようクライムダウンしながら最後に SL が降りてきてくれた。

その後はひたすら沢を下降し、大黒天から覗き見るギャラリーに向かって真っ白花崗岩のザレを 5~60m 登りゴール。まだ 12時半だ！

沢支度を解く間、CL がデポしてあった自転車で賽の磧まで車回収に行ってくれた。ありがたい。

下山後は遠刈田温泉神の湯(310 円)に入り IC で食事をし、蔵王からとは思えぬ早い帰宅となった。

*簡単なのに変化に富んだ景観が楽しめ、と〜〜〜っても良い沢でした♪
遠いので日帰だけで行くのがちょっと勿体無いような気もしますがオススメです！



賽の碓古道から出発



前方に振り滝を見ながら



振り滝出合



4~5mの滝が続く



振子滝下段(右岸巻き)



振子滝上段(左岸巻き)



上段滝落ち口を見ながらトラバース



滝上から溪相が変わる



下に降りてみよう



ツルツルを突破!(CLが)



この滝は右岸から



もこもこの可愛い苔



すっかり秋の空だね



上部も水が潤沢



あちこちから流れ出る



りんどうが満開



ちば乙女の会



コルからお釜に下る



お・・・泳ぎたい！！



お釜ドローン！



最近流行り？の自撮り



お釜外輪から濁沢へ



懸垂1回目



2回目左岸トラバース



ハーケン打ってあるが微妙



あとは下るのみ



自転車で車を回収